

笠井委員

日本共産党の笠井亮です。冒頭に小島委員長から視察報告があり、また、既に高木、渡辺委員からも発言がありましたけれども、私も福井、新潟の調査に参加をいたしまして現場に立ち、拉致被害者の地村保志さん、曾我ひとみさん、また特定失踪者の御家族の話も直接伺って、県、市当局や県警等の関係者の説明も受けて、改めて、一刻も早い拉致問題の全面解決をという思いを強くいたしました。そのために日本政府が果たす役割、そして外交努力が非常に大きい、いよいよ重要になっているということで、幾つか質問したいと思います。

まず初めに、六者会合の問題、先ほど来ありましたが、塩崎官房長官に伺います。

前回、七月十日の当委員会で、ミサイル問題直後でしたが、質疑があつて以降、さらに北朝鮮による核実験という暴挙が行われた。これに対して、国際社会は、国連安保理決議一七一八に基づいて一致結束をして、そして平和的、外交的に解決をする努力を重ねてきた。その結果、具体的な日程はまだ未定ということではありますが、北朝鮮を含めて六者会合の再開で合意するところまでようやく来たということだと思います。

中国、韓国、ロシア、米国と、いずれも関係国が一様に再開そのものについては評価、歓迎をして、ライス米 국무長官は、十一月中の開催合意に至らなかったもとも、先月三十日だと思ふんですが、この再開というのは既定路線だ、そして、次回協議の準備をしており、準備に時間がかかるのであれば、時間をかける価値があると。まさに急がば回れというような思いなのかなということで、腰が据わっているなど私はある意味思いました。

そこで、日本政府として、現時点での六者会合の再開の見通しと、関係国との協議状況はどうなっているか、さらに官房長官は、この協議再開が核問題それからミサイル問題とともに拉致問題の解決にとってどんな意義があるというふうにお考えか、答弁をお願いしたいと思います。

塩崎国務大臣

米中朝の話し合いの中で、六者会合を再開するということが決まった、このこと自体は歓迎すべき動きだろうというふうに思っています。先般もまた会合が北京で行われました。しかしながら、再開の時期が決まっていないわけでありませう。

では、それをどう考えるのか、どういう見通しなのかということでもありますけれども、今、ライス国務長官の話を引用されておりましたけれども、やはり中身が大事であつて、ただ再開をする、あるいは、核保有国として北朝鮮が帰ってくるなんということは我々としては断固として阻止せないかぬ。したがって、この間、ハノイでA P E Cの際に、米韓日の六者会合の代表が集まって、非核化の問題について、具体的な措置について、どういう条件が必要なのかということ議論したわけでありませう。それを北朝鮮に対して説明して、その中身を固めた上で再開しようということなんです、その中身について合意が得られなかったということで、まだ時期が決まっていないということになっています。

しかし、これからさらに努力を重ねて、中身のある、具体的な成果の上がる六者会合を再開するということが大事でありますから、そういう意味では、中身のないままに急いで開くという姿勢は私たちはとるつもりはありませんが、できるだけ早く、具体的な成果が得られるような六者会合の再開を実現すべく、最大限の努力をしてみたいと思つていませう。

もちろん、再開されたときには、我々としては、この拉致の問題というものを正面から取り上げるつもりでありますし、他の六者の仲間の国々もそれについては賛同をしてくれているところありますので、引き続き努力をしてみたい、こう思つておられます。

#### 笠井委員

北朝鮮の非核化という問題とあわせて、拉致問題にとってもいい枠組みだという認識で言われているんだというふうに思います。

政府は、拉致問題の解決のために国際社会の理解を求めることを重視してきたと思います。そこで、国際社会の理解と、そして連携強化ということで重要な舞台になるのは国連というのがあるわけですけれども、その動きについて岩屋副大臣に伺いたいんです。

国連では、昨年に続いてことしも既に、総会の第三委員会で、日本人拉致問題に言及した決議が採択をされた。そして、そういう動きがさらに進んでいるというふうに思うんですが、この表決の状況とことしの決議の特徴、それから、総会全体でもこれから決議が採択になるという見通しだと思うんですけれども、その見通しと、その決議の意義をどう見ているか。それから、あわせて、ことし三月に設置されて日本が理事国になりましたが、国連人権理事会など、今後国連への働きかけをどう強めていこうと考えていらっしゃるか、伺いたいと思います。

#### 岩屋副大臣

先生御指摘がありました国連の総会第三委員会においてどういう状況であったかということでございますが、我が国がEUと協力して作成、提出した北朝鮮の人権状況決議、これは昨年より多数の支持を得て採択されたところでございまして、賛成九十一票、反対二十一票、棄権六十票ということでございました。

決議の中身がどうだったかということでございますが、これは先生も恐らく資料をお持ちだと思いますが、昨年よりも内容が強化されております。

ポイントの一つは、拉致問題が国際的な懸念事項であるということが明記されている。それから、他の主権諸国家の国民の人権を侵害するものであるという文言も追加されております。それから、北朝鮮に対し人権関連決議の履行を要請するための国際的連携強化が必要であるという文言も追加をされてございまして、昨年よりも強化をされた内容になっているということでございます。それから、本会議ではどうかということでございますが、ただいま、ありとあらゆる外交シーンを通じて、総会本会議での採択に向けて努力を継続しているところでございます。

それから、御指摘のありました人権理事会につきましては、我が国としては、今後とも国連の場において適切な形でこの拉致問題を含む北朝鮮の人権状況を積極的に取り上げていきたい、この理事会の場を通じてさらに運動を強化していきたい、こう考えております。

#### 笠井委員

拉致問題を初めとして核問題及びミサイル問題などの諸懸案を解決する上で、日朝間の包括協議という枠組みがあるわけですけれども、ことし二月に第一回が行われて、そして、目に見える具体的な進展が見られないままになっている。麻生外務大臣も、この間、六者会合と日朝協議というのは車の両輪のようなものだということで言われて、相互に補完し合う形でいくことが重要だという趣旨を繰り返されてきました。

その後、北朝鮮によるミサイル発射とそれから核実験という暴挙が強行されて、現時点では、まず六者会合の再開の中でのことだというふうに日朝間のことも思うんですけれども、副大臣に端的に伺いますが、この日朝包括協議の再開の位置づけと見通し、どのように考えていらっしゃるでしょうか。

#### 岩屋副大臣

先生御指摘のとおり、二月の協議においては、拉致の問題を含めて、いずれの問題も進展が見られなかったわけございまして、大変私も遺憾に思っております。また、四月では、北東アジア協力対話、これは民間レベルでしたが、この日朝接触がございましたけれども、ここでも進展が得られなかったところでございまして、正直、次回協議開催の見通しは今のところ立ってお

りません。

ただ、官房長官からもお答えがありましたように、対話と圧力という基本方針で、私どもは何も対話の道を閉ざしているわけではございません。圧力をかけながら北朝鮮と対話をし、拉致の問題を解決していくというのが基本方針でございますから、粘り強く取り組んでいきたい、こう思っております。

#### 笠井委員

最後になりますが、今対話と圧力で粘り強くという立場だというふうに言われたわけですが、官房長官、日朝間の拉致問題などの諸懸案を包括的に解決して国交正常化に向かっていこうということで、日朝平壤宣言という方向があるわけですが、これは昨年九月の六者会合の共同声明をもって、日朝間の合意にとどまらず、やはり六者会合の合意という国際的な裏づけを持つに至っている問題だと思います。

その後、北朝鮮によってミサイル発射とそれから核実験強行という重大な事態があったわけですが、そのもとでも、安倍総理は答弁の中で、平壤宣言というのは両国の約束だ、そして、生きているからこそ、この趣旨、精神に反して行動している北朝鮮側がこの精神に戻るべきだ、この文書に北朝鮮が戻ってくれば、まさに国際社会に受け入れられる国になるし、この文書に戻って行動していけば、結果として日朝の国交が正常化する、その道に戻ってくるように我々はさらに北朝鮮を促していきたいんだということを言われています。

現時点での日朝平壤宣言と六者会合の共同声明とこの有効性について、その到達点に立った上での力強い外交努力という点について所見を伺いたいと思うんですが、いかがでしょうか。

#### 塩崎国務大臣

総理の答弁の中にあるように、日朝平壤宣言と共同声明、昨年の九月の共同声明であります。これが、この核実験、ミサイル発射によって北朝鮮が違反をしている、これは間違いないことだと思うんです。しかし、ではこれでそれぞれが無効になったか、それはやはり違うのだらうと思うんですね。総理がおっしゃっているように、やはりそのまま約束は約束でありますから、北朝鮮がその原点に立ち返って、それぞれやるべきことをやっていかなければならないということでもありますから、当然、共同声明、そして日朝平壤宣言に従って、核兵器あるいはミサイル計画、それから拉致問題、こういった問題に正面から北朝鮮が取り組んで解決をしていくという中であって初めてさまざまな諸問題が解決をしていくのではないかと、こういうふう考えております。

#### 笠井委員

政府としてもしっかり努力をしていただきたいと思います。終わります。